

教員の海外派遣に関する派遣期間中の教育研究活動実績報告書

Report of Educational/Research Activities of Visiting Faculty (Outbound)

提出日 /Submission Date : 2025年/Y 1月/M 6日/D

作成者 /This report is written by: 所属 Affiliation 経済学部

職位 Position 教授 氏名 Name 児玉直美

I. 派遣教員に関する情報 / Details of Visiting Faculty Member

派遣教員氏名 / Name of Visiting Faculty Member	児玉直美		
本学での所属機関 /Affiliation at MGU	経済学部経済学科	所属機関での職位 / Position at MGU	教授
派遣先機関 / Hosting Institution	Hope College	派遣期間 / Visiting Period	2024 年 8 月 22 日～12 月 16 日

II. 派遣期間中の教育研究活動実績 / Educational or Research Activities of the Visiting Period

※書ききれない場合は別紙に記入の上添付ください。Should you need more space, please attach the additional sheet of paper.

教育研究活動の概略 / Brief Statement of Educational and Research Activities	別紙参照。		
担当科目 / Teaching Courses ※シラバスを添付ください。 Please attach the course syllabus.	1	科目名/Title of the Course Causal Inference&Data Analysis 開講場所・曜時限 Class Information (SCICTR1111・月・水 3:00PM-4:20PM)	
	2	科目名/Title of the Course 開講場所・曜時限 Class Information ()	
	3	科目名/Title of the Course 開講場所・曜時限 Class Information ()	
	4	科目名/Title of the Course 開講場所・曜時限 Class Information ()	
その他の教育研究活動 / Other Educational and Research Activities	10/3 の Economics&Business Dept.の研究会で研究発表を行った。		

以上教育研究活動実績として報告します。I hereby report the above educational and research activities.

報告書作成者 署名/Signature of the reporter 児玉直美

※報告いただいた内容は本学ホームページ上にて公開させていただく予定です。※This report will be uploaded to MGU website.

1. 経済学科での授業

秋学期に、Causal Inference&Data Analysis という 400 番台の応用計量経済学の週 2 回(月・水 3:00PM-4:20PM)、14 週の授業を担当した。授業の内容、シラバス作成、授業の進め方などについては、経済学科長の Dr. Todd Steen、Dr. Stephen Smith と相談しながら進めた。派遣が決まってから、担当できる科目を先方に連絡するまでに 10 日程度しかなく、非常に慌ただしかった。12 月中旬の翌年度の授業科目登録に間に合ったため、科目や開講時間帯の自由度が高かった。Hope College の経済学科は 5 名しか専任教員がいないため、基本的な科目しか開講されていない。そのため、どのような科目を開講しても歓迎されると思う。日本の経済や労働市場についての科目も候補に挙げたが、先方の希望で、計量経済学の授業を行うことにした。

授業内容は、本学で行っている授業と基本的に同じであったが、日本では日本語の教科書を使っているため、英語の教科書に準拠して、ほとんど全ての教材を組み直した。受講学生は全員 4 年生、経済学を major または minor とする学生だった。学生は非常に学習意欲が高く、授業中の質問も活発で、双方向の授業は大変楽しかった。学生に、最後の授業で、授業に inspire されたと言ってもらえたことは大変嬉しかった。小規模で、PC を使った演習を行う授業だったため、学生同士も仲が良く、日本のゼミのような雰囲気だった。

卒業に必要な単位は 120credit(単位)、週 2 回×80 分×14 週(または、週 3 回×50 分×14 週)の授業を受けると 3credit である。1semester(1 学期)につき、学生が Max で取得できる単位は、現在は、3credit×5course=15credit(2024 年以降)で日本と同程度である。週 2 回の授業だったので、前回の授業内容を忘れる前に次の授業を行うことができた。本学の多くの授業が週 1 回、15 回、2 学期で行われているが、週 2 回、30 回、1 学期で完結というスタイルも、学習効果という点では検討の余地があると感じた。

28 回の授業で、毎回の授業のプログラムソースとログの提出、5 回の小テスト、2 回の中間テスト、1 回の期末テストを行った。この進め方は、Dr. Smith の計量経済学を踏襲した。レビューセッションは全員自主的に参加、オフィスアワーはかなり活発に利用されていた。私のクラスは小さかったが、Hope College の専任教員の授業は平均 20 名程度の学生がいる上、1 学期に 3 コース教えているので、授業負担はかなり大きいと思う。私が聞いた範囲では、毎授業のクイズ、小テスト、中間テスト、期末テストなど試験が頻繁に行われていた。授業期間中は、学生は遅くまで図書館などで勉強する姿を見かけたし、教員は採点に追われていた。少人数で面倒見の良さを売りにしている大学なので、授業の準備、採点以外にも、出席不良や成績不振の学生との面談も頻繁に行われていた。

2. 研究発表

Economics&Business Dept.では月 1 回の学部の研究会が開催されていた。私は、10 月の研究会で発表させていただいた。私は経験しなかったが、学部の研究会は、ジョブ・セミナーとしても使われているようだった。

3. 教授会

Economics&Business Dept.の教授会は月 1 回開催される。時間は常に 1 時間半きっかりだった。発言する人は、事前に、5 分とか 7 分といった時間が割り当てられ、その時間内に発言をするように準備していた。明治学院大学の教授会が 3、4 時間かかることを話すと逆に驚かれ、そんなに長い時間何を話すのか質問された。教職員への情報共有は、Hope Daily というメーリングリストで行われていた。Hope Daily では、行事(部活の対外試合、コンサートの案内等)、注意事項(今日からはここには車を駐車してはいけない、成績登録の締切日等)などが毎朝送られてきた。

4. 寄附文化

Economics&Business Dept.は、新校舎の建設を進めており、教授会のかかなりの時間を、どのように資金調達するかに費やされていた。学期途中の短い休暇期間も、学部長は、寄附集めのためにニューヨークに行っていた。奨学金の原資は、卒業生、Holland に縁のあるお金持ち、宗教団体、企業など。例えば、音楽ホールのある Jack Millar Center は、寄附者の Jack Millar 氏に因んで名付けられた。Miller 氏は Hope College の卒業生であり、Howard Miller Company という会社の社長だった。米国で寄附が盛んなのは、日本では寄附することが社会的に評価されていない(それどころか、まるで悪いことのように受け止める)が、米国では、ビジネスに成功して、自分の名前の付いた建物を建てるというのは名誉なことと考えるマインドの違いである。https://www.mlive.com/news/grand-rapids/2013/06/hope_announces_major_donation.html

寄附を集めることは、学長や学部長の最大の仕事である。「あまり楽しい仕事ではないけどね」と聞いた。米国の大学は学費が高い。しかし、ほとんどの学生が奨学金をもらっている。その原資が寄附である。Hope College でも、平均的には学生は学費の半分以上を奨学金で賄い、学費を全額支払っている学生はほとんどいないとのことだった。現役世代の学生の学費を抑えて、卒業後に出世払いで寄附をしてもらう。魅力的な奨学金パッケージを提示することが、良質な志願者を増やす。学長の Scogin 氏は将来的には全員の学費を奨学金(寄附)で賄うことを公約にしており、毎年 20~40 人分の学生の学費分の寄附額を増やしていると聞いた。成績が悪いと奨学金が打ち切られることも、学生が勉強に励む一因になっているようである。

学生のサークルでも寄附を募る。オーケストラ部の公演では、「カーネギーホールで学生が演奏できるように寄附を！」というチラシが配られる。映画部の無料上映会(しかも、ポップコーン付き)でも、映画の冒頭と最後に、寄附者のテロップが流れる。学生時代から、自分が実現したいことを実現するために寄附(お金)を集めることを実践していることは、日本との大きな違いである。

5. 居住環境

私は、Hope College が所有するキャンパスに隣接する家具付きアパートに滞在した。1 階は別の家族が住み、私は 2 階に 1 人でファミリーサイズの部屋に住んでいた。帰国直前の 12 月にはマイナス 10 度くらいまで外気温は下がったが、部屋の中は温水で暖房されており快適だった。普段、東京で、車を運転していない私は 10 年ぶりくらいに車の運転をした上に、左ハンドル、右側通行だったので、滞在期間中、最もチャレンジングだったのは車の運転だった。Phelps というカフェテリアが朝昼晩営業しているので、自炊をしなければ車なしの生活も可能だと思う。カフェテリアの食事内容は非常に充実していた。バイキング形式で、料理やデザートの内容もバラエティに富んでいた。4 か月間で最も成長したのは、私の胃袋だった。

小さな大学なのでみんなが知り合いで、歩いていると、いろいろな人から話しかけられた。100m 位先から私の姿を見つけて大声で挨拶してくれる知り合いもできた。研究室の廊下ですれ違う時も黙って通り過ぎることはなく、必ず何か立ち話をしていた。隣の家の人ともよく挨拶した。東京では、隣に住んでいる人の名前すらよく知らないが、Holland では、隣の人の名前、ペットの名前、仕事、昔どんな仕事をしていたか、家族構成、遠くに住んでいる子どものことまで知っていた。米国の田舎は日本の田舎と似ている。

大学のスタッフ、教員は、こちらが恐縮するほど親切だった。Dr. Smith は、到着した日に、私の住む家まで送ってくれた上に、スーパーマーケットや Holland の町を案内してくれた。Dr. Steen は、授業は上手くいっているか、何か困っていることはないか、常に気にかけてくれた。Center for Global Engagement の Amy (Otis) Quincey 氏や Jasmine Lowell 氏には、生活面で困っていることを相談したり、休日に郊外に連れ出してもらったりした。夏休みに明治学院大学の学生が短期留学、職員が研修に来ていたが、彼らも、Hope College のスタッフの驚くほどのホスピタリティのお蔭で Holland での生活を満喫していた。彼らの体験は教職員、在校生、志願者にもっと共有できると良いと思った。

COURSE OUTLINE

Any date that is “boxed” (as in [31]) is a date on which a problem set is handed out, to be submitted onto Moodle by 9 a.m. on the date of the next class meeting.

1.	Introduction	August 26
2.	Introduction to Stata	August 28
3.	Summary statistics and visualization	
A.	Describe summary	September 2
B.	Visualization	September 4
4.	Directed Acyclic Graphs (DAG)	September 9, 11
5.	Ordinary Least Squares (OLS)	September 16, 18, 23

Review session Monday September 23, 4:30-6:00PM, VZN 155 (Conf. Room #3)
Exam 1 in class Monday September 30

6.	Potential Outcomes Causal Model	
A.	Potential Outcomes Causal Model: RCT	October 2
B.	Potential Outcomes Causal Model: ITT	October 9
7.	Difference-in-Difference (DD)	
A.	Simple 2*2 DD	October 14
B.	Placebo test	October 16
C.	Event study	October 21
D.	Twoway fixed effects with differential timing	October 23
8.	Panel Data	
A.	Construct panel data: merge, append, collapse	October 28
B.	Panel fixed effects model	October 30

Review session Thursday October 31, 3:00-4:30PM,
SCICTR *Schaap 1009 Computer Lab-Psychology Lab
Exam 2 in class Monday November 4

9.	Data Handling	
A.	Loop and macros	November 6
8.	Matching and Subclassification	
A.	Subclassification	November 11
B.	Propensity score	November 13
C.	Coarsened exact matching	November 18
D.	Propensity score matching with Difference-in-Difference (PSM-DID)	November 20
9.	Instrumental Variables (IV)	
	Theory and application of IV	November 25, December 2, 4

Review session Wednesday December 4, 4:30-6:00PM, VZN 155 (Conf. Room #3)
Final Exam Monday December 9, 9-11 a.m.
